

[博士論文審査要旨]

申請者：姜 雪潔

論文題目 成熟郊外都市における産業振興——多摩地域の事例を中心に——

審査員 関 満博

橘川武郎

西口敏宏

本論文の目的は、成熟する郊外都市の産業集積と地域産業振興のあり方について、東京郊外の八王子市を対象に採り上げ、その産業集積の歴史的な経緯、現状を追いながら、新たな可能性を提示しようとするものである。この八王子市は人口 57 万人を数える首都圏最大の郊外都市であり、かつては繊維地場産業、そして、近年ではハイテク産業集積を進めた都市として知られている。本論文の筆者は、綿密な歴史的な分析を縦軸に、現在の八王子市のハイテク産業集積の担い手である中小企業の丁寧な現場調査を横軸に、産業集積の充実、転換の行方を立体的かつダイナミックに描いている。

本論文の優れた点の第 1 は、産業集積が成熟した次の段階を地域社会の問題としてとらえ、成熟した地域社会の中から新たな産業集積が生み出されていくことを析出した点にある。特に、成熟した地域社会がもたらす「新たな需要」が、次の産業集積を促す点に着目したことは大きく評価できる。明らかに、八王子は繊維地場産業集積からハイテク産業集積に転換し、そして成熟した現在、高齢社会に向けた新たな「生活産業集積」への転換を進めている。この点は、成熟化する先進国の最先端の課題に向かっていることを意味している。

そして、第 2 の優れた点は、丹念な現地調査に加え、自ら長期にわたって中小企業でのインターンシップを重ね、成熟する郊外都市の産業集積、中小企業の内側に入り、その息吹を受け止めながら、集積の内面に迫ろうとしている点であろう。

もちろん、このような優れた貢献を生み出している本論文にもまったく欠点がないわけではない。丁寧な現場調査を行いながらも、その成果を十分に活かしきれていない。また、言葉のハンデからであろうが、必ずしも適切な表現がなされているわけでもない。しかしながら、これらの問題は、産業集積の世界に新たな知見をもたらした本論文の価値を大きく損なうものではない。何よりも、本論文の筆者がそのような課題を深く自覚しており、さらに、今後、この問題を深めていく意思を固めていることも将来を期待させる。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第 5 条第 1 項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。